

「伝統武術のグローバル化連続講演会」

東アフリカでの柔道普及の記録：

# もみ殻、花柄、難民、 五輪とバイタク



大学3年生の秋に「アフリカへ行く!」と決意した私が辿り着いたのは、タンザニアの警察学校。それから約20年、柔道の先生なのにタンザニア人の柔道家をバイクタクシーのオーナーにするまでの物語をお話しします。まず22歳の私が畳も柔道着も十分に無い環境で、前転もできない生徒たちに泣きながら柔道を指導した2年間の経験をお伝えします。その2年は「現場のリアリティ」を掴もうとするフィールドワークでした。次に夕焼けの花柄マット道場からスタートし、コンゴ民主共和国からの難民の若者たちと出会い、そして国際大会に参加するまでのウガンダでの柔道普及の経験をお話しします。「難民」という生き方、そしてクラウドファンディングについて私が考えたことをお伝えしたいと思います。最後に舞台をタンザニアへ戻し、「オリンピックに出ても飯は食えん!!」という現実と向き合う弟子たちとの取り組みについてお話しします。

**5/12 水 9:00~10:30 Zoom 開催**



講師：溝内克之 (NPO 法人アフリック・アフリカ事務局長)

1977年、大阪生まれ。大阪市立汎愛高等学校武道科卒業。1999年、京都文教大学文化人類学科在学中にアフリカへ行くために青年海外協力隊に参加。タンザニアの警察学校で柔道指導(2年間)。帰国後、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科に進学。フィールドワーク、日本大使館や JICA (国際協力機構) での仕事のためタンザニアとウガンダに計12年半滞在。元タンザニア(本土部)及びウガンダ柔道代表監督。現在、在タンザニア日本国大使館勤務。講道館柔道三段。

企画・担当：坂巻静佳・孫曉剛・富澤かな・奈倉京子 (静岡県立大学国際関係学部)

問い合わせ先：孫曉剛 (sun@u-shizuoka-ken.ac.jp)

\*本講演会は2021年度静岡県立大学国際関係学部・学部研究推進費の助成による。